

COM

Vol.37/2025

NISSEI は、人と車と街と、いい関係。



Front Line ■ 建築家インタビュー

山崎 健太郎

Arrangement ■ 納入事例

パティエナ大阪／PMO EX本町／天神ブリッククロス

News Topics ■ ニューストピックス

福島工場に太陽光発電設備を導入／グループ共通行動規範を新たに策定
Smart PS Closer 出庫後自動ドア閉 紹介

Information ■ COMプレゼント

日精株式会社



世界最小クラスの紛失防止タグ 「MAMORIO RE」

5名

どんなケースにも入る紛失防止タグ「MAMORIO RE」は、貴重品や工具の見守りに最適。スマートフォンで位置を追跡し、建設・建築現場での管理をサポートする頼れるアイテムです。



設計プロセスの現場

5名

山崎健太郎氏を含む7組の建築家が、革新的な建築が生まれる創造プロセスを解き明かす。リアルな設計の過程と情熱を描いた、建築の核心に迫る一冊。



QUOカード

30名

1,000円券

NISSEI

本社

〒105-8411 東京都港区西新橋一丁目18番17号(明産西新橋ビル)
TEL.03-3502-9555~7(ダイヤルイン) FAX.03-3597-9548
parking_n@nissei.co.jp

大阪支店

〒550-0011 大阪市西区阿波座一丁目12番17号(PMO四ツ橋本町 5F)
TEL.06-6599-9706(代表) FAX.06-6599-9707
osaka_n@nissei.co.jp

札幌営業所

〒060-0042 札幌市中央区大通西八丁目2番地(住友商事・フカミヤ大通ビル6F)
TEL.011-231-8513(代表) FAX.011-231-8514
sapporo_n@nissei.co.jp

名古屋営業所

〒460-0003 名古屋市中区錦二丁目14番19号(名古屋伏見Kスクエア 8F)
TEL.052-228-2231(代表) FAX.052-228-2232
nagoya_n@nissei.co.jp

日立支店

〒312-0063 茨城県ひたちなか市田彦950番40号
TEL.029-219-9931(代表) FAX.029-219-9932
hitachi_n@nissei.co.jp

山口支店

〒744-0004 山口県下松市青柳一丁目6番15号
TEL.0833-43-6637(代表) FAX.0833-44-1945
yamaguchi_n@nissei.co.jp

福岡営業所

〒812-0038 福岡市博多区祇園町2番35号(プレスト博多祇園ビル 3F)
TEL.092-260-8571(代表) FAX.092-260-8573
fukuoka_n@nissei.co.jp



日精(株)ホームページ

<https://www.nissei.co.jp/parking>



アンケートに答えてプレゼントを当てよう!

応募
方法

プレゼントの応募方法は、同封の「アンケート用紙」に必要事項をご記入のうえ、宛名欄に印字されているお客様番号をお忘れなくご記入いただきまして、はがき、またはFAXで、「日精(株)パーキングシステム事業部営業本部」までご返送ください。厳正なる抽選のうえ、プレゼントの当選者を決定させていただきます。また、抽選に外れた方にも全員にQUOカード500円券をプレゼントさせていただきます。プレゼントご応募の締め切りは2025年12月末日まで。なお、プレゼント当選者の発表は当選されました賞品の発送をもちまして代えさせていただきます。

ホームページ
からも
応募できます



www.nissei.co.jp/parking/com

ご回答の皆様
全員にもれなく
QUOカード
500円券
プレゼント



建築家として活躍している人の多くが、大学生時代から、独立を考えていらっしゃると思います。でも僕は、独立とか建築家が夢とか、そういう風に考えて、生きてこなかったタイプです。子供の頃から建築に興味があった、という訳でもありません。もちろん、大学で建築を学び、面白いなとは思っていたけれど……でも、何かの取材の時にも言いましたが、学生時代の経験が建築家を志すルーツとなったかっていうと、そういう記憶はないんですよ。そもそも「建築家になろう」と意識したのが、32歳くらいです。はつきり覚えてはいませんが、自分で事務所をはじめたタイミングで、「ようやく意識を持った」という感じです。

何かにになりたい、という思いも特に

建築家になろうなんて、思っていなかった
きっかけはパークレーでの協働体験

なかったですね。ただ、その都度、一生懸命生きてきました。建築が学問として面白い、というのを感じていました。きっかけとして挙げるなら、大学院生の時にひと月ぐらい、サンフランシスコのパークレーにある大学へ、アーバンデザインのプログラムを学びに行かせてもらった事です。僕は「街」というプログラムで、ひとつの建物をどう設計するか、というテーマに向き合っていました。大学には色々な人がいて、パークレーの人やイタリアの人、コペンハーゲンの大学の人……その人たちと一緒に、会話しながら提案を作っていくんです。それは、これまで続けてきた、全部一人で決めて、一人で苦しんで、一人で徹夜して作る、みたいな時間とは全然違って「面白いな」

大学を出たあと、東京の組織設計事務所就職しました。建築観というようになもの、そもそも持っていなかったし、独立したのもほぼ成り行き。そんな僕ですが、沖縄でレストラン設計の仕事に携わる機会があって、この経験が意識をがらりと変える大きな転機になりました。当時は下北沢に事務所が

沖縄の人との時間・体験を通じて
自分の仕事は場所をつくることだと認識

あったのですが、事務所で模型を作っていて、沖縄へ持参しプレゼンする、という仕事の進め方に違和感がありました。沖縄と本州では環境が違ったり、風景だっただけでまったく別物。そこで、沖縄らしさを求め、現地でリサーチを重ねて、沖縄の資源である琉球石灰岩を、かつての沖縄の人たちのように関係者

と。みんなで話をして、みんなに「あつ、いいね、それは！」と意見を貰った作品を作っていく。それって「健全じゃないですか。今までやってきた建築は、自分の設計を正当化するためのもの。どうしたら作品を見た先生たちが「納得」するのか、という、いわば「説得」だったのに対して、パークレーでは「どう思う？」や「つばり」「こっちの方が大事

だよな」って、話し合っていくやり方で説得じゃない「健全」な対話が気持ち良かったという。自分が全力を注ぎ込んだら、こっちの方面が圧倒的にいいなって思いましたね。当時は気付かなかったけれど、今思えば「建築家でやっていこう」と思ったきっかけは、パークレーで過ごした時間の中にあつたのかもしれない。

現場の願いをしつかりと捉える。

「健全」な話し合いから生まれる「健全」な建築



山崎 健太郎

Kentaro YAMAZAKI

八千代市の老人デイサービスセンター「52間の縁側」で、2024年日本建築学会賞(作品)、2023年JIA日本建築大賞、2023年グッドデザイン大賞を受賞した山崎健太郎氏が考える、建築の役割とは

COM Vol.37



CONTENTS

Front Line ■ 建築家インタビュー
山崎 健太郎 2

Arrangement ■ 納入事例
パティナー大阪 8

Arrangement ■ 納入事例
PMO EX本町 10

Arrangement ■ 納入事例
天神ブリッククロス 12

News Topics ■ ニューストピックス
福島工場に太陽光発電設備を導入
グループ共通行動規範を新たに策定 14
Smart PS Closer
出庫後自動ドア閉 紹介

Information ■ COMプレゼント 16

みんなで積むという結論に至ったんです。沖縄のレストランには、やはり沖縄の資源が一番だと思ってたんですね。いざ沖縄でワークショップをやってみたら、3日間で60人くらいが集まってくれました。そうやって建築を一から作った経験が心に残り「建築ってすごい仕事だな」と。「建築を自分の仕事」だと認識したのは、沖縄の体験から。今まで自分が一生懸命勉強してきたことに、ちゃんと「意味」があるとかって。この業界には、自分がやるべきことが、確かにあると気付きました。ちょっと大げさかもしれないけれど、建築家が、現場にいる人たちの「願い」や「想い」をしつかり捉え、きちんと形にするのが仕事なんだって、心から感じた出来事です。



糸満漁民食堂 Photo：小出直穂子

「場所」に対するみんなの「想い」を 建築に込めて実現していく

沖縄で出会った人たちは、自分たちの郷土料理を伝承したいという、強い「想い」を抱えていました。そのためには、建築の力が必要だと。僕が沖縄に行くとき、彼らはおじいさんやおばあさんの話をずっとするんです。自分たちが大事に残していきたい場所も、たくさん案内してくれました。沖縄の人たちはおじいさんやおばあさん、お父さん、お母さん、自分たちの子どもたち、そんな家族と過ごす時間の中で生きている。だからこそ、郷土料理を伝えていく店を作らなければ、自分たちの食文化が小さくなっていつてしまう。もしかすると消えてしまうかもしれない……そんな不安な気持ちがすごく強かったですね。たまたま出会った一部の人の考えかもしれないと興味を持ち、他の人にも聞いてみたんですが、決して偏った意見じゃなくて、周りにいる仲間も同じ気持ちを持っていました。さらに、「やるんだったら応援するよ」という、仲間がたくさんいた。この事実を知って、人の想いを大切に作る場所が必要なこと。場所を作るにあたって、どういう形状が適しているのか。その場所や形に意味を持たせられるのか、という部分が設計側の責任で



あると感じました。レストランへ琉球石灰岩を積んでもらうことについて、彼らがどういう風に反応するだろう、という点も気になっていました。現地に暮らす人たちが抱える場所に対しての想い、場所を「自分たちの言葉」で他の人に説明する力、伝える力がとても強かったです。彼らは、僕なんかよりよっぽど上手にしゃべるんですよ。「おじいさんの文化はこうで、使っている素材はこう」「だからこれをみんなで作っただけです」って感じですね。

この感覚は、パークレーで感じたような清々しさにつながっていて、健全な感じがしたんです。自然っていうのかな。すごくね、ここに全力を注ぎ込んでもいいんだって。頑張ってるべき価値ある仕事で、僕の体質には合っていると思っています。

どこからでも行き来できる 内でも外でもない境界があいまいな「52間の縁側」

コンセプト、と言っているのか分からないけれど、52間の縁側は、「安心して年を取っていただける地域社会が欲しい」という皆さんの、望みを叶える施設です。この想いを受けとめ、実現するには「縁側」のようにどこからでも入れ

る、内でも外でもない境界があいまいな建物の形がフィットするんじゃないかと考えて設計しました。ディスプレイの建物だけど、利用者さんだけでなく、その周囲、地域、世間、共同体、友だちや仲間、そういう人たちの気持ちも含

めた「安心して年を取れる地域社会が欲しい」という声を形にしています。まず敷地を見て、いろいろな人の声を聞いて。その上でコストと空間の大きさ、人が集まる場所と、ひとりで行われる場所がうまく共存できる建物になるように考えました。その結果、子どもたちが勝手に来て宿題をしたり、認知症のおじいちゃんに声を掛けたり、不登校の子どもが自分からお皿を洗ったりして過ごす空間が生まれたと思っています。建築の力だけでは難しいけど、建築は環境の一部でもある。そこにいる人たちの雰囲気や場所が決

まるし、その人たちの気分や居心地の良さ、「ここはわたしたちの場所」だと思える気持ちには、建築の作り方にももちろん関係がある。だからこそ、僕は設計者として、願いや想いを乗せるさまざまな努力をしたつもりです。場所や利用する人の気持ちを大切に設計すると、彼らが持っている主体性なんかが出やすくなるし、使いやすくなる。建築はあくまでも総体の一部でしかないけれど、52間の縁側は、地域の皆さんが望む世界を実現できる建物になってきているのではないのでしょうか。

建築は環境の一部でしかない でも、環境が引き起こす「奇跡」もある

つい一昨日、すごく興味深い話を聞いたんです。「52間の縁側」の利用者さんは、介護保険法が適用される方が主なんです。世の中には介護保険が適用されない居場所のない人もいます。すよ。「縁側」がいいのは、そんな地域の中にいる、引きこもりの人や障がいのある人、そういう人たちも受け入れてくれる。ここに来たら何かしら仕事があるから、柱に防腐剤を塗ったり、お茶を

出したりして、役割を果たしてくれる。最初はぶつきたらばうで怖かった人が、「おまえ、休んでいけ」なんて言って、僕にお茶を出してくれるんです。その中に、12年間ぐらい引きこもりで、障がいのある50代男性がいました。受け入れ先がないから、「縁側」でケアできるなら、そうしてほしいとケアマネージャーや行政側から依頼があつて。それで3ヶ月ほどいたそうです。体は



52間の縁側 Photo：黒住直臣



「福祉」というとつい「配慮」という解釈をしてしまう。でも、それは福祉という言葉に引っぱ張られているんだと思います。僕らだって、普通に生きているだけで、辛いことがいっぱいあります

人と人との関わりあいでも生きる 人間同士の環境を整えるのが建築の役割

ち止まることが許されなかった。病院の廊下って、誰かが立ち止まっていたら邪魔ですからね。最後になるかもしれない親子の対面の場を想像して見た時、廊下はすごく残酷だと思いました。ホスピスだからこそ、もっとゆったりとした廊下スペースを取ってあげた方がいいし、病室まで足を運べない、立

ち止まりたいんだったら、ちよつと廊下で腰掛けて、自分の気持ちを整理したり、ちよつと窓の外を眺めてみたり。そんな環境を整えてあげるといいし、それぐらいなら設計者にもできる。いわゆる病院的な建物では、ゆつたりとした気持ちにはなれないし、やっぱり環境が大切だと思うんです。

よね。ごく普通の暮らしの中で、ですよ。これは福祉に限った話じゃなくて、日本人がこれからどうやって生きていくべきか、という話だと思います。どうやって年を取り、どうやって死んでいくのか。子どもたちとどう付きあっているのか。いわゆる共同体が失われる時代の中、それでも人との関わり合いの中で生きていくのが大切だっていう、それだけなんです。でも世の中には、関わり合いを感じられる環境が整っていないくて、ぜんぶ、自分たちだけで生きていかなければいけない場所ばかり。ここは制度の役割ではなく、建築の役割として、人間が望む環境を整えていくべきだと思います。

最後に機械式駐車場について

今、機械式駐車場に必要なのは、いかにコンパクトに、いかに高いクオリティで運営していくか、ということ。ここをきちんとやっていけば、価値につながるのではないかと思います。最近では、なんでもかんでもある種の多様性に配慮する、みたいな傾向があるけれど、機械式駐車場もその他の環境も、あまり行きすぎない方がいいのかなと。駐車場と言えば、低コストで、合理的で、都市から駐車場が見えなくなっていく、というのが最良。バリアフリー化の推進なんかは、もちろん必要だとは思いますが、これから進むべきは、たとえばスローに車椅子に乗った人がいたら、「ちよつと押しましようか」とか「ちよつと手を貸しましようか」と、誰もが声をかけ合える社会。設計や建築の力だけで解決するのではなく、環境から生まれる人同士の関わり合いがないと、この先厳しくなるのではないかと感じています。

P R O F I L E

山崎 健太郎 Kentaro YAMAZAKI

1976年、千葉県生まれ。2002年、工学院大学大学院工学研究課建築学専攻修士課程修了。2002年、株式会社入江三宅設計事務所。2008年、山崎健太郎デザインワークショップ設立。2024年、工学院大学建築学部教授。

主な受賞

2013年、グッドデザイン賞。2015年、日本建築学会作品選集新人賞（糸満漁民食堂）、日本建築家協会優秀建築選（はくすい保育園）。2017年、iF DESIGN AWARD Gold。2021年、日本建築家協会JIA優秀建築賞（新富士のホスピス）。2023年、グッドデザイン大賞、JIA日本建築大賞。2024年、日本建築学会賞（作品）受賞（八千代市の老人デイサービスセンター「52間の縁側」）。



動くから、食器を洗ったり、ご飯を出したり、掃除したり、いろいろなお手伝いをしてくれたそう。でもある日突然、「今月には行けなくなりました」と。理由を聞いたら彼、介護の勉強を始めたっていうんです。12年間引きこもっている人が、3ヶ月間「縁側」で過ごしたのをきっかけに、介護の勉強のために千葉へ通いだしたと。すごい。そんなことが起こるんだって驚いたし、感動しました。環境が変わるだけで、こんな信じられないことが起きるんですね。でも残念ながら、自分の居場所が、地域社会の中にない場合もある。今行政がやっている「制度」と「場所」があればどうにかなる、という考えは、設計者としてあまり信用していない。人って変わるから。本当に必要なのは、周りの人が好きでも嫌いでも、一緒にいられる環境なんです。そのためには、設計や建築の力を生かした工夫も必要。人の変化が起きるのは「環境」だと思っています。「建築だ」なんて思っていないです。でも、この嬉しい話を聞いて、建築は環境の一部だし、その場所を利用する人たちのたくましさとか明るさとか、さまざまな人たちが無理なく同じ空間に一緒にいられるかどうか、という点で、建物の力が役立ったのかなと感じています。

亡くなるはずの300名が260名に 雑木の庭を感じられる環境のホスピス

「52間の縁側」の前に、「新富士のホスピス」を設計しました。ホスピスもデイサービスと同様に、どうやって設計すればいいのか、考えるのが難しい建物のひとつです。亡くなっていく人の環境、終の住処を考えるのだから……。結局、病室に対して何か意図した設計を提案する、ということとはしなかったし、しないほうがいいと僕は思っています。だけど、一般的な、いわゆる中廊下があつて両側に居室があるような、病院形式の建築は絶対止めるべきだと思っています。ここには廊下ではなく、回廊と呼んでいる幅の広い廊下と庭が一体になるような建物を提案しました。

「新富士のホスピス」ができあがつて、ちょうど2年目ぐらいかな。ここでは、2年で300人ぐらいを看取る予定でした。患者さんの平均滞在期間がだいたい2カ月ぐらいで、最後は末期ガンで亡くなる場所です。ところが実際は、300人を看取るはずだったのに、40人ぐらいが亡くならず、自宅に帰ったんだそうです。もちろん、ここで死にたくないからと、帰った方の中にはい

ると思います。でも事実、40人が亡くならずに、一度は自宅へ帰ることができた。このホスピスには、敷地内に立派な雑木林があつて、ここを意図して残した設計としています。庭に面したダイニングテーブルで、ご飯が食べられるようになった。家族や友人たちが訪れやすい。ベッドをテラスに出して庭を感じられる。そんな、以前のような生活に近い環境で過ごせたという事が、良い影響をもたらしたのかもしれないですね。「生きる」って複雑で、設計や建築が未来へどんな影響を及ぼすかは想像できない。でも、人の幸せには、環境が大きな影響を与えている

と思います。その他の要因ももちろんあるけれど、環境が違うだけで家族が頻繁に訪れたり、病院で掛けられる言葉も変わる、そんな変化が生まれると思うんです。

これは聞いた話ですが、娘さんがホスピスで過ごすお父さんに会いに行き、廊下でどういう言葉を掛けようかと、言葉を整理していたという話です。でも、幅1.8メートルの廊下は、ゆっくり立



新富士のホスピス Photo：黒住直臣



EV格納トレー（スタンド式トレー）正面



EV格納トレー（スタンド式トレー）側面



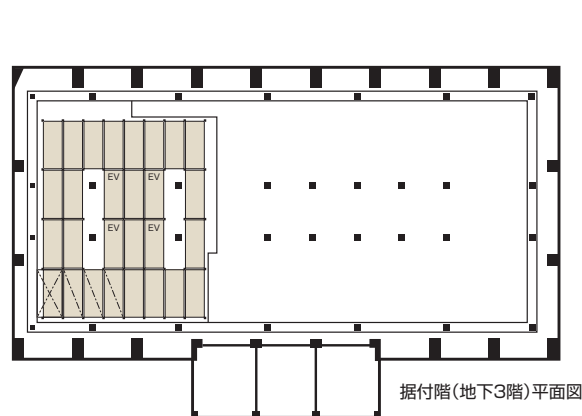
格納部



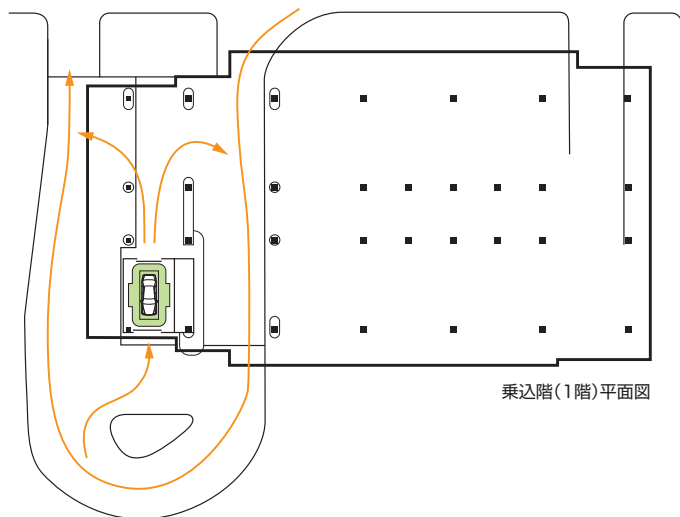
リフト（フォークリフト2本柱）



格納部



据付階（地下3階）平面図



乗込階（1階）平面図

都市型ホテルにふさわしい、機能美を備えた駐車空間

歴史と景観に調和する佇まいを追求した「パティーナ大阪」では、駐車設備にもその思想が息づいています。敷地条件に合わせて、駐車スペースには日精の水平循環方式「フレキシブルパーク」を導入。都市部のホテルに求められる柔軟性と高い収納力を備え、特大型車やハイルーフ車にも対応しています。

位置を中央部に設けることで出庫動線を短くし、スムーズな運用を実現しています。地域には古い住宅や商店が多く、外観との調和も重視されました。省スペースで静音性にも優れ、環境へのやさしさと使いやすさを両立しています。建物全体がまとう品格を損なうことなく、機能性と美しさが共存する駐車空間となっています。

世界でラグジュアリーホテルやリゾート、サービスレジデンスを展開するカペラホテルグループが手がけるライフスタイルブランド「パティーナホテルズ&リゾーツ」。その日本初進出の地として選ばれたのが、いま、関西・大阪万国博覧会でにぎわう大阪です。

中でも、「パティーナ大阪」は、大化の改新の舞台となったとされる難波宮跡や、豊臣秀吉が天下統一の拠点とした大阪城といった日本の歴史を象徴する地に位置しています。

大阪城の石垣や銅屋根をモチーフにしたデザインは、歴史と自然の調和を感じさせる佇まい。その美しいフォルムは、周囲の景観にやさしく馴染み、訪れる人の目を引きまします。

一方、内装は深みのある木目を基調に、落ち着いた温もりを感じさせる空間に仕上げられています。こうした、伝統と革新が静かに共鳴する、心地



パティーナ大阪 外観 Photo : Forward Stroke inc.

歴史と調和する、ラグジュアリーホテルの新たなかたち

よい滞在空間は、歴史的な立地へのオマージュと、現代的な快適性を兼ね備えたラグジュアリーホテルとして、訪れる人々に新たな体験を提供しています。



オートドア開閉時

【建築概要・規模】	
■建 築 主	NTT都市開発株式会社
■敷地面積	4,900㎡（特定街区全体：約13,600㎡）
■延床面積	約38,940㎡
■構造規模	地上20階、地下3階
■基本設計・実施設計監修・内装実施設計監理	株式会社NTTファシリティーズ
■実施設計・監理・施工	株式会社竹中工務店
【駐車設備概要】	
■機 種	水平循環方式フレキシブルパーク
■型 式	FLX10RJ3-73 (9) FD-BE12×12T
■収容車サイズ	全長5,600mm×全幅2,100mm×全高1,550／2,000mm
■重 量	2,700kg
■構 造	3層・通リ抜け方式
■収容台数	73台（特大型車25台 内電気自動車4台） （特大型ハイルーフ車48台 内電気自動車8台）

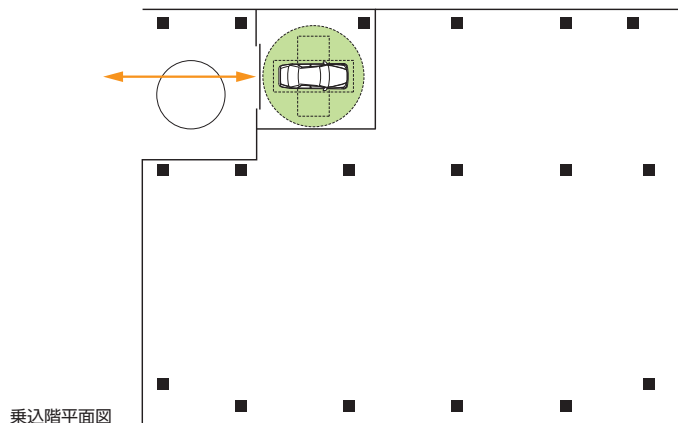
パティーナ大阪



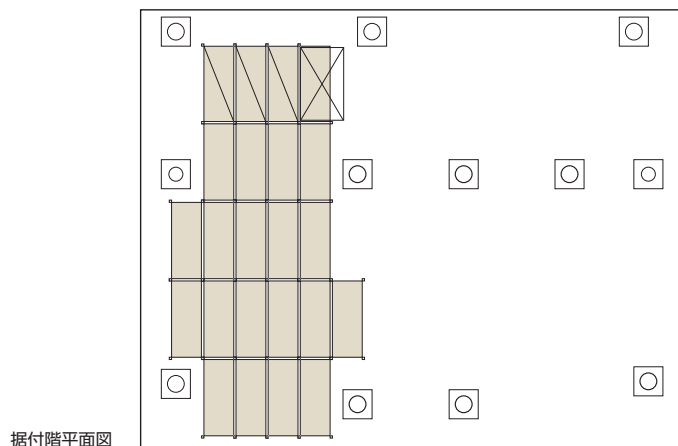
乗降室フラットトレー



自動二輪駐車スペース



乗込階平面図



据付階平面図

建物全体で高い安全性と快適性を追求するPMO EX本町では、駐車設備にも同様の思想が息づいています。採用されたのは、日精の水平循環方式「フレキシブルパーク」。中型車20台、中型ハイルーフ車18台、自動二輪車2台を効率よく収容できる設計で、都市部における限られた敷地の活用に適したシステムです。

2層構造に加え、ターンテーブルを内蔵し90度旋回機能を備え、車両の出入庫に対応。幅広のオートドア

BCPを支える、高機能な駐車設備



2層格納部(中央 自動二輪主用トレー)



1層格納部

さらに、止水板の設置や設備配置の工夫により、「水都・大阪」特有の水害リスクにも現実的に対応している点は、大きな特長のひとつです。

5階には、テナントで働く人々がくつろげる専用ラウンジ「HUMAN FIRST SALON」を設置。2〜4階には、少人数から利用できるサービ

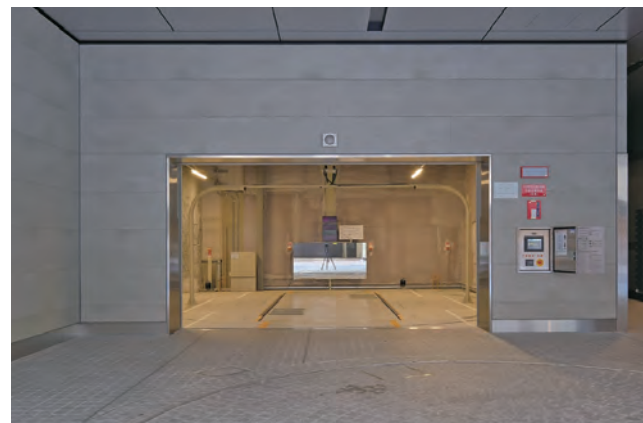
PMO EX本町は、野村不動産の「PMO」シリーズ最大規模となるハイグレードなビジネスオフィスです。黒を基調とした洗練されたシリーズスタンダードを環境配慮ファサードとしてアップグレードした外観が都市の街並みに調和し、存在感が際立ちます。

スオフィス「HIO（エイチワンオー）」も併設されており、新たなビジネスが生まれる場としても機能しています。2駅4路線が徒歩圏内という交通便利性の高さも、この施設の大きな魅力です。

都市に求められる、機能と快適さを兼ね備えた一棟



PMO EX本町 外観



オートドア開閉時

【建築概要・規模】	
■建 築 主	野村不動産株式会社
■容積対象面積	12,962.44㎡
■延床面積	14,107.05㎡
■構造規模	地上14階、地下1階
■設 計	株式会社竹中工務店
■施 工	株式会社竹中工務店
【駐車設備概要】	
■機 種	水平循環方式フレキシブルパーク
■型 式	FLX1SGR2-39(6)FDT-BC1×2M
■収容車サイズ	全長5,000mm×全幅1,900mm×全高1,550/2,000mm
■重 量	2,300kg
■構 造	2層・ターンテーブル内蔵90度旋回・免振対応
■収容台数	38台(中型車20台) 自動二輪トレー1枚2台収容

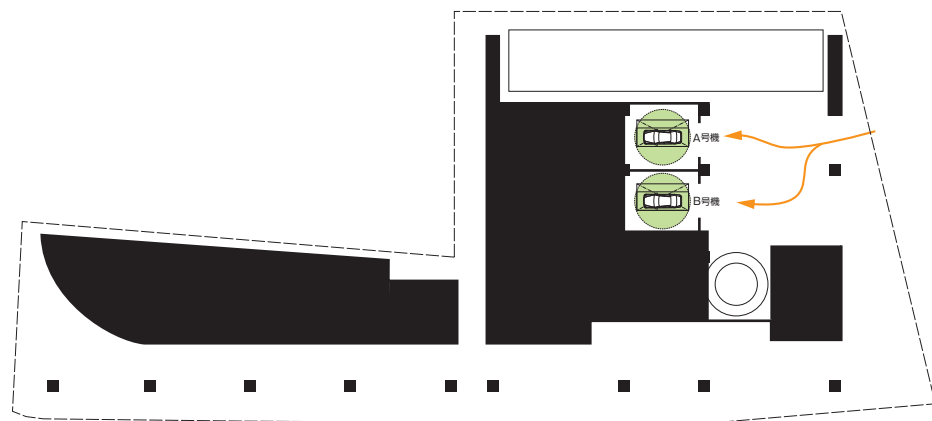
PMO EX本町



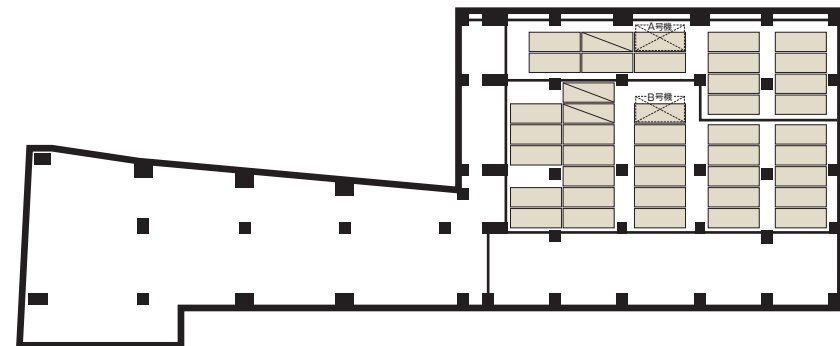
乗降室プラットフォーム



A号機格納部



乗込階平面図



据付階平面図

「天神ブリッククロス」では、都市機能としての合理性と利用者の快適性、そして景観との調和を両立した駐車設備が採用されています。

導入されたのは、日精の水平循環方式「フレキシブルパーク」。限られた敷地を最大限に活用できるこのシステムで25台収容と48台収容の2基73台の収容を可能としています。

25台収容は、収容台数を優先し平面空き1枚で循環を行い、48台収容は、平面空き2枚で循環を行う事で循環効率を上げ収容台数を多く確保して

います。

2層構造でリフトに旋回装置を内蔵し180度旋回させ前進による入出庫に対応、スムーズな入出庫を実現。加えて、駐車設備が地下に収められていることで、地上部はプロムナードの緑や街の景観を妨げることなく、開放的で上質な空間が保たれています。

利便性と効率性を備えながら、天神の街並みに溶け込むよう配慮されたこの駐車場は、「天神ブリッククロス」を、足元から支える重要な役割を担っています。

街の景観と調和する、機能的な地下駐車場



B号機格納部

天神ブリッククロス

都市の真ん中に、潤いと品格をまとうオフィス

「天神ブリッククロス」が立地するのは、九州最大のオフィス・商業集積地である福岡・天神二丁目。地下鉄空港線「天神駅」直結という抜群のアクセスに加え、周囲には商業施設や飲食店、公園や水辺空間も点在し、都市の利便性と自然の潤いが共存する環境が魅力です。福岡市は「職住近接」の暮らしが実現できる都市として注目を集め、アジアの交流拠点としても存在感を高めています。

適で居心地のよい、緑に囲まれたゆったりとしたアプローチ空間が、訪れる人の印象をやわらかく包み込みます。

さらに、CASBEE福岡でAランク、BELSで4つ星を取得した高い環境性能も特長。LED照明や自動調光、LowE複層ガラス、自然換気装置など、省エネと快適性を兼ね備えたオフィス環境が整っています。



天神ブリッククロス北棟 外観

【建築概要・規模】

- 建築主／日本生命保険相互会社、積水ハウス株式会社
- 敷地面積／2,707㎡（約818坪）
- 延床面積／37,048㎡（約11,207坪）
- 構造規模／北棟：地上18階、地下2階、塔屋1階、南棟：地上13階、地下2階、塔屋2階
- 設計・監理／株式会社久米設計
- 施工／株式会社大林組

【駐車設備概要】

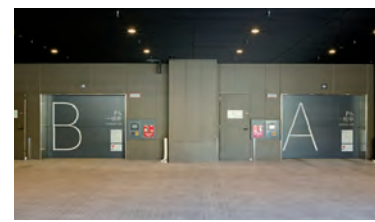
- 機種／水平循環方式フレキシブルパーク
- A号機
 - 型式／FLX1LSRH2-25 (2) FDHT-B
 - 収容車サイズ／全長5,300mm×全幅1,950mm×全高1,550／2,000mm
 - 重量／2,500kg
 - 構造／2層・ターンテーブル内蔵180度トレー旋回
 - 収容台数／25台（大型車13台）（大型ハイルーフ車12台）
- B号機
 - 型式／FLX1LSRH2-48 (4) FDHT-B
 - 収容車サイズ／全長5,300mm×全幅1,950mm×全高1,550／2,000mm
 - 重量／2,500kg
 - 構造／2層・ターンテーブル内蔵180度トレー旋回
 - 収容台数／48台（大型車25台）（大型ハイルーフ車23台）



天神ブリッククロス南棟 外観



オートドア開閉時



Smart PS Closer 出庫後自動ドア閉

スマートシティの一步先へ

日精の「Smart PS Closer」は、運転者にとっての出庫時の手間を大幅に削減し、運転者の利便性を大幅に向上させます。従来の出庫時には、運転者が一旦降車して場内の安全を目視確認し、操作盤を操作してドアを閉める必要がありましたが、「Smart PS Closer」を導入することで、運転者は出庫後そのまま出発でき、「車を降りてドアを閉める」というわずらわしい操作が不要になります。効率的な駐車場運営とスマートな都市生活を実現するための革新的ソリューションです。



動作ムービーはコチラ

Smart PS Closer の特徴

- 高度な自動化**
最新のセンサー技術を活用し、駐車場内の人や物の動きをリアルタイムで監視。自動で安全確認を行い、ドアを閉めるため、運転者は安心して出庫できます。
※オートドアが閉じたことの確認は必要です。
- 最適な運営効率**
自動閉扉機能により、駐車場の運営効率が向上。出庫後の操作が不要になり、次の利用者がスムーズに利用開始できます。
- 高い信頼性**
堅牢で耐久性のある設計。日精の厳しい品質管理基準をクリアし、長期間の安定運用を保證します。

従来の使い方と比較

Smart PS Closer



従来の駐車場



利用者の声

出庫後の混雑が解消され、利用者の満足度が向上しました。

高齢者や障がい者の方でも安心して利用できるようになりました。

駐車場の運営効率が向上し、ゲストの利便性が大幅に改善されました。

出庫時のドア閉め忘れがなくなり、とても安心です。

COM
NISSEI PARKING SYSTEMS

発行日：2025年10月10日
通刊第37号
発行：日精株式会社
パーキングシステム事業部
〒105-8411 東京都港区西新橋1-18-17
明産西新橋ビル
TEL. 03-3502-9555～7(ダイヤルイン)
本誌掲載の写真・記事の無断転載および複写を禁じます。

日頃より「COM」をご愛読いただきまして、ありがとうございます。編集スタッフ一同、心から感謝申し上げます。

今号の建築家インタビューでは、八千代市の老人デイサービスセンター「52間の縁側」で、2024年日本建築学会賞など数多くの賞を受賞された山崎健太郎氏にお話を伺いました。

建築を通じて現場の願いと真摯に向き合う山崎氏の世界の一端をご紹介できたかと思います。

皆様の日々のお仕事の中で何かのヒントになれば幸いです。

日精はこれからも皆様にご満足いただける駐車設備を提案してまいります。何卒変わらぬご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、取材に当たり、ご協力いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。

編集後記

福島工場に太陽光発電設備を導入



日精は、機械式駐車設備の生産拠点である福島工場(福島県西白河郡泉崎村泉崎中核工業団地)の屋根部に、太陽光発電パネルを新たに設置し、6月2日より稼働を開始しました。設置枚数は240枚にのぼり、1日あたり約140キロワット時の発電出力を見込んでおり、年間約60トンのCO2排出を削減します。

ここで発電された電力は、工場内の空調設備など、職場環境の向上に利用しています。将来的には、EMS(エネルギー管理システム)を導入し、工場全体のエネルギー使用状況を可視化・最適化していく計画です。また、サステナビリティ経営を推進する日精は、電力需要のある近隣企業

とのエネルギー融通やEV(電気自動車)への充電やシェアリング、非常時の電源としての利用なども検討していきます。

なお、今回の取り組みは、三菱HCキャピタルエナジー株式会社との間で締結したPPA(電力購入契約)に基づくものです。

太陽光発電設備の稼働開始にあたり「持続可能な社会づくりに貢献し、50年100年と続く工場でありたい」と語る日精の川畑社長。日精は、環境への配慮はもちろんのこと、社員が働きやすい職場環境の整備や地域との共生も含め、日精ホールディングスグループの一員として、これからも持続可能な社会の実現に貢献していきます。

日精ホールディングスグループ共通の行動規範を新たに策定しました

私たちはこれまで「豊かな社会の創造に貢献する」というパーパスのもと、時代の変化に対応しながら常に前進を続けてきました。その歩みをこれからも確かなものにしていくために、すべての社員が共有すべき価値観や行動のあり方を明文化し、実践につなげていくための指針として、行動規範を新たにし、本規範を日精ホールディングス各社で共有することとしました。また、日精ホールディングスグループで働く全員が正しく行動規範を知り、各人が自分事として理解を深めることを目的に行動規範ガイドブック「N-Standard code of Conduct Guidebook」も作成しました。

最近では社会やビジネス環境が複雑さを増す中で、公正で誠実な企業活動がより一層求められる時代となっています。

そこで私たちは、「信頼」「探求」「変革」「挑戦」「成長」という価値観を土台とし、私たちの責任と姿勢を行動規範として明確にしました。本規範では、持続可能な社会への貢献、法令遵守、倫理の徹底、不正や反社会的勢力との決別、情報の透明性、多様性の尊重、安全な職場環境の整備、そして地域社会との共生など、企業として果たすべき基本姿勢を示しています。

この行動規範を営業や設計、製造、経理や法務などすべての活動の土台とし、社員一人ひとりが実践することで、お客様により信頼される企業を目指してまいります。

